

第11回 日本免震構造協会賞 -2010-

第11回日本免震構造協会賞は、右の6件に決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果に、作品賞は、免震構造の特質を反映した優れた建築物に贈る。

表 彰

2010年6月3日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

河村壮一 (委員長) 江本正和 木林長仁
小泉雅生 小堀 徹 中埜良昭 古橋 剛
増田 剛

審査経過

本年度の応募は、功労賞0件、技術賞7件、作品賞7件であった。

技術賞への応募は例年より多く、免震部材の開発・実証2件、免震改修2件、制振改修1件、制振ダンパーの開発・適用(改修・新築)2件であった。作品賞への応募は、新築で事務所ビル3件、病院1件、複合市民施設1件、空港管制塔1件のほか、共同住宅の免震改修1件であった。

第1回委員会で、審査対象の選定・審査方法および日程等につき審議し、技術賞応募全件のヒアリングと、作品賞応募全作品の現地審査を1月から3月にかけて行った。これらを踏まえて第2回委員会を開催し、厳正な審査の結果、技術賞3件、技術賞(特別賞)1件、作品賞2件を選出した。

技術賞は、技術の斬新さ・信頼性・発展性・市場開拓性・社会貢献などの面から選定された。1件は、都心に立地し敷地に制約のある増築を重ねた大型百貨店の免震改修を、営業しながら安全かつ短工期に実現したものである。他の2件は新しい性能を有する制振ダ

選 考 結 果

第11回日本免震構造協会賞受賞は下記の6件である。

I 技術賞

- 1) 三越本店本館バリアフリー工事
～「都市型免震レトロフィット」～の実現
株式会社三越 石塚邦雄
株式会社横河建築設計事務所 西村嗣久 古宮謙二
清水建設株式会社 武藤 光 村井義則
- 2) 既存超高層建築の長周期・長時間地震動対策の
技術開発とその実施
大成建設株式会社 細澤 治
明治安田生命保険相互会社 松尾憲治
大成建設株式会社 木村雄一 須田健二 吉村智昭
- 3) エネルギー吸収効率を最大化するON/OFF 制御型
オイルダンパの開発と実用化
鹿島建設株式会社 栗野治彦 山田俊一 田上 淳
清水 幹 松永義憲
- 4) <特別賞>超高層免震建物用大型免震支承部材の
実大性能試験の実施
株式会社竹中工務店 嶺脇重雄 山本雅史 東野雅彦
濱口弘樹
東京工業大学 和田 章

II 作品賞

- 1) ろうきん肥後橋ビル
近畿労働金庫 永田憲一
株式会社日建設 多賀謙蔵 嘉村武浩 加登美喜子
株式会社銭高組 下土井節男
- 2) 株式会社前川製作所新本社ビル
大成建設株式会社 小林治男
株式会社前川設計一級建築士事務所 松本敏勝
大成建設株式会社 渡辺岳彦 田中 勉 船原英樹
(敬称略)

ンパーの開発と実施適用で、既存・新築高層ビルの長周期地震動等に対する安全性・居住性・BCPの向上に大きな貢献が認められる。

技術賞(特別賞)の1件は、大型免震支承の実大試験を一企業が米国の大学にまで出かけて実施したもので、技術の信頼性確保への飽くなき追求が評価される。

作品賞は、免震・制振技術による構造的な工夫だけでなく、建築空間・デザイン・環境配慮・地域貢献等社会性・投資効果など、総合的な評価に基づいて選定された。2件いずれも事務所ビルである。うち1件は、コアの偏心配置とテンションロッドの採用等により明るく開放的な執務空間を実現し、他の1件は、地震力の低減により階数を確保しつつ地域融和性の高いビルを創出している。

免震技術の適用が超高層や軟弱地盤に拡大しているが、十分な安全対策が望まれる。

(河村壮一)